

事例番号:300373

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第四部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 1 日 既往帝王切開による予定帝王切開のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 38 週 2 日

14:34 帝王切開により児娩出、骨盤位

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 2 日

(2) 出生時体重:3100g 台

(3) 臍動脈血ガス分析:pH 7.30、BE -4.0mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 8 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

出生当日 呼吸障害、低血糖のため高次医療機関 NICU に転院

新生児一過性多呼吸、気胸の診断

生後 29 日 退院

生後 5 ヶ月 全般性発達遅滞を認める、筋緊張低下あり

(7) 頭部画像所見:

生後 6 ヶ月 頭部 MRI で、大脳基底核・視床に明らかな信号異常を認めず、

側脳室前角の拡大、両側前頭葉白質容量の低下を認める

## 6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 2 名

看護スタッフ: 助産師 1 名、看護師 2 名、准看護師 3 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

妊娠経過、分娩経過、新生児経過に脳性麻痺発症に関与する事象を認めず、脳性麻痺発症の原因は不明である。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価

### 1) 妊娠経過

(1) 妊娠中の管理は一般的である。

(2) 妊娠 35 週に 2 回既往帝王切開のために妊娠 38 週 2 日に帝王切開の方針としたことは一般的である。

### 2) 分娩経過

(1) 妊娠 38 週 1 日、38 週 2 日帝王切開目的による入院中の管理(分娩監視装置装着による子宮収縮および胎児の健常性を確認)は一般的である。

(2) 帝王切開中の管理(母体血圧管理、麻酔方法)は一般的である。

(3) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

### 3) 新生児経過

(1) 出生後の呻吟・鼻翼呼吸への対応(パルスオキシメータを装着、酸素投与、パルスオキシメータから心電図モニターに付け替えたこと、胸部レントゲン撮影、血液ガス分析の実施)は一般的である。

(2) 生後約 3 時間に血液検査で血糖 29mg/dL を認め、10%ブドウ糖注射液の持続投与を開始したことは一般的である。

(3) 呼吸障害・低血糖のため高次医療機関に搬送を行ったことは一般的である。

#### 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

脳性麻痺発症に関与すると考えられる異常所見を見出すことができない事例を集積し、疫学調査や病態研究等、原因解明につながる研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。